

「歴史総合」をめぐる(4) －「歴史総合」の背景－

日時：2019年10月26日(土) 13:30-17:30pm

会場：駒澤大学駒沢キャンパス3号館(種月館)3-207 教場

(資料代 300円)

開会挨拶：若尾政希 一橋大学教授 日本学術会議会員
趣旨説明：君島和彦 東京学芸大学名誉教授 日本学術会議連携会員
司 会：中野 聡 一橋大学教授 日本学術会議特任連携会員

報告

加藤公明 (国土舘大学客員教授)

主体的な学びを実現する授業づくりの挑戦
－「歴史総合」に向けて－

藤野 敦 (文部科学省教科調査官・
国立教育政策研究所教育課程調査官)
歴史領域科目のめざす学習

－新学習指導要領「歴史総合」を中心に－

山本勝治 (東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭)

学習・評価一体型の「DP歴史」授業実践
－「歴史総合」での活用を視野に入れて－

コメント：久留島典子 (東京大学教授・日本学術会議会員)

閉会の挨拶：中野達哉 (駒沢大学教授・日本歴史学協会委員長)

昨年まで、歴史教育シンポジウムでは、新設科目の歴史総合について、いろいろな方面から検討してきた。歴史総合は、新しい学習指導要領も公表され、教科書の編纂も進行中で、2022年度から授業も始まる。このような状況を受けて、2019年度の歴史教育シンポジウムでは、「歴史総合の背景」を検討する。これまでの授業実践の理論化、歴史系科目の目標、歴史総合

